

管鈍集落「ふるさとサポート募金」による基金設立趣意書

謹啓 早春の候、貴殿におかれましては、ますます御健勝のことと拝察申し上げます。

かねてより、管鈍集落の発展には、深いご理解のもとに、多大なる御協力、御支援を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、先輩諸兄の皆様には、昭和の初期以降、ふるさと管鈍を後にして、関東・関西方面に移住され、艱難辛苦を乗り越えられて幾星霜、望郷の念を押さえながら、遠くふるさとを心のよりどころとして、懸命に頑張っておられた御苦労に対し、心から敬意を表します。

かつて、管鈍集落は、昭和二十年～三十年代には、人口七百余名を数えて、全盛を誇った時代もありましたが、今や過疎化や高齢化等、時代の趨勢とともに幾多の変遷を経ながら、衰退の一途を余儀なくされ、現在は戸数十三戸、人口二十五名の極小規模集落に陥ってしまい、今後も一層拍車がかかることが懸念されます。

とりわけ、空き屋敷や田畑、河川は荒廃し、往時の面影はまったくなく、見るに忍びないありさまとなっており、実に寂しい限りであります。

この度、関東、関西郷友会の役員有志の皆様方から、心温まる画期的な御意見を賜りました。それは、幼少年時代をたくましく育ててくれた当時のなつかしい、母なるふるさとの山・川・海の情景が、いまだに脳裏に焼き付いており、ふるさとのさびれた状況に、胸をいためられて憂い、この現状を打開するために、「ふるさとサポート募金」の創設を提案されました。

さっそく、この好機を逃がすことなく、建設的なご意見に報いるべく、集落の会計とは切り離して、「ふるさとサポート募金」による基金を設立いたしました。

そこで、全国各地で燦然と活躍されておられる出身者や、その趣旨に御賛同いただける皆様に広く呼びかけて、左記の要領で、（ふるさとサポート募金）をお願いする事にいたしました。

ふるさと管鈍で生活している私共にとりましては出身者の後ろ盾は、実に心強く、大きな支えであり、深く感謝しているところであります。

つきましては、誠に恐縮に存じますが、管鈍集落出身者や管鈍集落に縁の深い皆様方が、その趣旨に御理解と御賛同を賜り、この事業が円滑に推進できますよう、応分の御協力をお寄せいただきたく、ここに御案内申し上げます。

末筆ながら、皆様方の益々の御多幸と御繁栄と御活躍を御祈念申しあげ、「ふるさとサポート募金」による基金の設立趣旨説明のごあいさつといたします。

敬白

記

- 募金は、各個人一口壱千円（何口でも可）をお願いし、毎年継続する。
- 募金を少しでも有効活用するために、お礼状等の発送はしない。但し、募金名簿を作成して、年一回の集落総会や各地区の郷友会総会等において公表して、お礼に代える。
- この募金の使途は、集落の環境美化のための作業に限定する。
- 作業の進め方は、募金の予算内で作業員を雇用し、賃金を支払って実施する。
- 作業箇所については、集落生活道路を優先的に行なう（個人所有の土地、屋敷等は除く）
- インターネットのホームページを立ち上げて、趣意書、集落の現況写真、活動状況等を随時発信する。
- 募金は、ゆうちょ銀行、振替口座（口座記号番号〇一七七〇-四一六九九〇七）へお願いいたします。
- この事業への取り組みに対して、ご意見、要望等がございましたら、アドバイスをお願いいたします。

平成三十年五月吉日

管鈍集落ふるさとサポート募金基金設立委員会

会長 森 直弘

事務局長兼会計 昇 豊次

委員 山下 賢一郎、屋島 武範、中水 恵子、

春 信男、野口 克哉、藤原 弘江、

嘉藤 洋一、山下 宏隆、春 真吾、

木原 武則、久保 喜久男

監査 与倉 一新、加藤 哲司

管鈍集落出身者 各位